

市電は今、インシデント・トラブルが多発している**非常事態**にある。100周年を機に、**過去の事故に徹底的に向き合い再検証し、風化させない取組**を行っていく。全員が危機意識を持ち**安全を最優先する組織風土**に変えると同時に、人・車両・施設の安全対策にも不断に取り組んでいく。

## 【決意】1. 安全を最優先に

※:実施中

- 【過去】・H20年死亡事故以降、10月12日を事故ゼロの日と定め研修などを実施
- 【現状】・安全を誓い研修なども実施しているはずであるが、その後も死亡事故発生 → **教訓が活かされていない**
- ・場合によっては安全より時刻表を優先した運行
  - ・局内各部門間の一体感の欠如
  - ・全職員の危機管理意識の欠如
- 【今後】・**安全意識と危機意識の向上を目的として、管理者等管理職による運転士・監督の個人面談**※
- ・減便による負担軽減を図った上で添乗監査の強化※
  - ・インシデント等検証委員会でも「職員のモチベーション向上」、「安全に関する組織風土」、「働きやすく、乗務員自ら報告・提案できる風土」など背景的な要因について今後ご議論頂き、早急に対策を実施



【決意】・**安全を最優先とする組織風土の再構築元年とする**  
そのために

- ・安全が何よりも大事であることの徹底(職場風土醸成)
  - ・改めて過去の事故を徹底的に再検証(風化させない)
- **幸せを運ぶ電車 = 絶対に安全でなければならない**



【添乗監査】



【緊急職場指導】

## 2. 人の再構築

※:実施中

- 【過去】・退職者不補充 H16～運転士、H18～技工職
- 【現状】・R3以降は、運転士が ほぼ全て非正規職員へ  
→ **人材の長期的展望が欠如**
- ・安全を維持するための職員育成の遅れ
- 【今後】・**上下分離で正職員化し処遇改善・モチベーション向上**
- ・将来を見据えた計画的な職員採用と技術の継承
  - ・無事故経験者を指導教官とした新人育成※
  - ・座学式→対話式等本人の気づきを引き出す研修の検討【新人乗務員育成】



## 3. 車両の再構築

- 【過去】・全国初の低床車導入などを行うものの計画的な車両更新が出来ていない
- 【現状】・全車両45編成中の23編成(約51%)が60年超
- ・法定耐用年数13年に対し、平均車齢は48年
  - ・既存車両は延命化・長寿命化対象に分けて改修中
  - ・今年1月に安全装置不良でのドア開インシデント発生
- 【今後】・**R6～13年度迄、3両編成含む新型車両を12台導入**
- ・既存車両の大規模改修も検討
  - ・ドア開対策としては安全装置の定期交換、ドア開注意喚起装置を新設



【新型車両】

## 4. 施設の再構築

※:実施中

- 【過去】・H21策定の経営健全化計画により、必要最低限の施設整備
- 【現状】・軌条更換、電停改良、電柱建替等について、整備の遅れ
- ・敷設レール全体の56%が耐用年数(20年)超え
  - ・近年、信号見落としによる信号冒進が数回発生
- 【今後】・**レール等更換計画の見直しによる更新の加速化**
- ・電停のバリアフリー化、電柱建替の計画的実施※
  - ・信号冒進対策として信号の補助表示装置を新設



【軌条更換工事】